

ゴルフナビ社から 最上位機種 **GTR**が発売



ジャパンゴルフフェアに初出展したのが、シミュレーションゴルフメーカーのゴルフナビ社だ。

韓国GTR社と同ITD社が共同で独自に開発・製造したシミュレーションゴルフ機器を、ITD社が日本に輸出。ITD社も経営に参画しているゴルフナビ社（日本）が日本で展開。リーズナブルでラウンドも練習も思うがままの『GOLFNAVI』を発売したのが昨秋のことだ。

それに加え、今回のJGFで御披露目されたのが、サーバータイプでリアルなラウンド体験ができる『GTR SR』、そしてサーバータイプで効率的に練習をカスタマイズできる『GTR ST』だ。

そして今回は、日本ゴルフナビ社の副社長であるチ・ミンガン社長もブースに立った。『GOLFNAVI』や『GTR』が生まれた経緯から今後の構想まで、チ・ミンガン社長を直撃した。

『GOLFNAVI』（日本以外での商標登録）は、世界13か国で累計533万台（2023年1月現在）で利用されている。『GOLFNAVI』は、2018年に販売がスタート。『GOLFNAVI』の開発は、当時のシミュレーションゴルフ機器には、スクリーンの1画面に、すべての情報が一度に表示される機器がなかったんです」。すべての情報とは、弾道データ、インパクト映像、スイング映像、コースレイアウトなどで、

センサー会社とソフト会社の共同開発で『GOLFNAVI』誕生

「それが1画面に一度で見れることが、ゴルファーに分かりやすいと思ったんです」。チ社長は、そう「火を切り、商品名への想いと開発の苦労を語り始めた。ゴルファーに分かりやすくという考えは、商品名にも込め、アルファベットの記号のような商品名が多い中、よりゴルファーに親しみをもつてもらいために直感的で分かりやすい『GOLFNAVI』（ゴルフナビ）という名前にして日本国内での販売を開始。それに加えて、日韓でのシミュレーターの位置づけも異なった。「韓国ではラウンド、日本ではレッスンや練習が主です。両方に対応する機器も充実していかなかった」。

そこでセンサー技術に長けるGTR社とソフトウェア会社であるITD社が協力し、生れたのが『GOLFNAVI』だった。センサー会社とソフトウェア会社が共同開発したシミュレーターは稀な存在。しかし、開発は困難を極めた。大きな課題があったからだ。

問題はカメラセンサー。打ったボールを認識する超高速カメラセンサーは、20個ほど試しましたが、最終的には産業用のGIGALANカメラを独自に開発しました」。

GIGALANカメラとは、高速度カメラセンサーで取得した情報を高い精度で安定的に転送することができます。さらにゴルフナビ社の未来はこれから始まる。

開発者が

開発者が日本で即座に対応

日本市場向け商品は国内生産

日本に腰を据えて

チ社長は日本市場での展開に注力するため、日本に腰を据えるという。その理由を問うと、「開発者の私自身が腰を据えることで、情熱が伝わると思うんです」。

チ社長は語気を強める。韓国生まれのシミュレーターで、日本のゴルファーに腰を据えることは、日本人の腰を据えることと同じで、意味深いオブジェクトだ。

そしてインドア施設が増加傾向にある日本で、新たな商品であるサーバータイプでリアルなラウンド体験ができる『GTR SR』、そしてサーバータイプで効果的に練習をカスタマイズできる『GTR ST』が発売された。その新機種を含め、次節では今後の展望を聞いた。

新たに市場を想像する

今回発売された『GTR』はサーバータイプで、利用者のラウンド履歴や練習履歴が、専用アプリ『GTR SW』を利用して、専用アプリ『GTR SW』を利用することで確認できる。

ゴルファーも施設も、それに加えて、シミュレーターへの子供たちの提供ができます。そのためには、もうひとつ、チ社長が日本に腰を据える理由がある。

「日本のゴルフ文化を私自身が肌で感じなければなりません」。

チ社長は日本に腰を据えることを、日本のゴルフ文化を肌で感じなければならない理由がある。

日本国内で出售するシミュレーターの組立は、愛知県半田市の倉庫で行います。組立方法も含め、スタッフへの指導は私自